

第 7 回洋上風力発電ゾーニング協議会 議事概要

日時：令和 2 年 3 月 10 日（火）13：30～15：30

場所：久慈市役所 3 階 大会議室

出席者：三宅座長，浦委員，佐野委員，森山委員，馬内委員，下向委員，晴山委員，
今井委員，福地委員，阿部委員，高橋委員，嵯峨委員

1. 主な議事

○事務局より，第 5 回・第 6 回洋上風力発電ゾーニング協議会の振り返り，ヒアリングの実施状況，ゾーニングマップのスクリーニング結果と各エリアの個票，今年度計画の実施達成状況について説明を行い，協議会メンバーにより意見交換を行った。

【説明内容】

- (1) 5 回・第 6 回洋上風力発電ゾーニング協議会の振り返り
- (2) ヒアリングの実施状況について
- (3) ゾーニングマップのスクリーニング結果と各エリアの個票について
- (4) 今年度計画の実施達成状況について

2. 主な意見等

【議事（1）関係】

特になし。

【議事（2）関係】

特になし。

【議事（3）関係】

- ・漁業協調を行う主体となるのは久慈市か，それとも事業者か。
→漁業協調の主体は基本的には事業者と考える。沿岸漁業者から漁獲魚種等のヒアリングを行って，きちんとしたイメージを持って検討したい。
- ・海洋産業研究会の話であげられた漁業協調のメニューについて，既に実施された例があれば，イメージが沸くよう例を示してほしい。
→小規模のものであれば実例があるようだが，現状大規模洋上ファームは存在しない・計画中であるため，大規模な漁業協調の実績はないと認識している。
- ・漁協生産部幹部会のヒアリングにおいて，ウニの餌場を作る，補助事業であれば，という文言から，漁業協調ではなく，補償という印象を持った。伝わっていないのではないかと。
→話のニュアンスからは補償とは感じなかった。沿岸漁業の振興に積極的であり，風車の効果や付帯効果に期待して話をされた印象だった。
- ・大規模な漁業協調の実例は国内に無いということであれば，事情は異なると思うが，海外で実例が無いか，調べてほしい。
→調べてみる。

【議事（3）関係】

- 「海底ケーブルの敷設によりゾーン②～③の漁業にも多少の影響があると考えられる」とあるが、どこに設置しても影響があるのではないか。また、設備利用率や建設費等の事業性の具体的な前提条件が必要ではないか。
 - どのゾーンでも陸揚げの必要性があることから、影響は出ると考えられる。今後事業者ヒアリングをして事業規模等を特定したい。
- 設備利用率や建設費といった、事業の前提条件が必要ではないか。
 - 現段階ではコストは想定が難しいことから入れていない。今後、事業者として想定される業者にヒアリングにより風車の基数といった事業規模を特定したい。
- 景観が気になる視野角は限定されることが考えられるが、視界の深度として、1°未満の距離は妥当なのか。視野角の中に入っている場合は、深度についても慎重に検討すべき。
 - 距離5.7kmの根拠として1°を参考にしているが、再検討する。
- ゾーニングはエリア、個票はゾーンという使い分けで良いか。統一してほしい。
 - 統一する。
- 景観について、環境省のマニュアルには1°未満であれば気にならないと書いてあるだろうが、数値だけではなく主観的な問題になる。風車の数によっても違うのではないか。数字を示すだけではなく、久慈の市民や代表者にどこまで許容できるかアンケートをとってもいいのではないか。
 - フォトモンタージュにより検討してみる。
- 5つにゾーンについて、事業性についても評価して導入可能性検討エリアを検討するのか。
 - 事業性の評価については重要であるが、環境省としては、事業性はそのときどきの技術で変わっていくもので、事業者任せのものと考えている。念頭に置いて進めているものの、ゾーニングにおいては参考という位置づけである。
- 沖側で調整の数が少ない、風況もよいという状況がある中で、ゾーン②を中心に検討とある。景観等の配慮事項が多いことを考えるとゾーン③～④も含めて検討する必要がある。
 - ゾーン②を念頭に置くことは間違いないとは考えているが、ゾーン③～④排除とは考えていない。議論の順番として、ゾーン②の地先の漁業者とメリットの実証ができてから、沖側に広がっていくというイメージを持っている。
- 大臣許可漁業で、県の漁船漁業の近海漁船協会も県内船のとりまとめをしているので、協議・協力の要請が必要ではないか。知事許可漁業については沿岸漁船漁業組合がある。地元の漁協以外の漁業者団体とも予め協議を行うと円滑に進むのではないか。
 - 参考にする。
- 景観のシミュレーションの作成は、人間の目の見え方に近い状況で作成しなくてはならない。作成方法や示し方は難しいところではあるが、来年度も検討したい。
- 魚礁の設置の仕方は重要と思われる。魚礁以外にも漁業者のメリットを検討する場を持てれば個票が充実する。洋野町や洋野町漁協の事例を参考にして検討してもらいたい。
- 風車が東側にある場合、見える時間はお昼から太陽が当たって反射する時間帯になる。また、視野角の中は船も多く航行する場所であり、船に注目してしまい風車は目立たないかもしれない。人工構造物が本当に見えない景色を求めているのか、このような中で風車が許容できるの

かをアンケートで諮ってもよいのではないか。

【議事（4）関係】

○漁業者と意見交換は、最初は難しいかもしれないが、回数を重ねることで配慮事項や提案事項など、意見を出して深めていけると事業者への要検討事項としてあげていけるのではないか。

○漁業者だけでなく、市民が集まれる勉強会やワークショップを開催したり、市民の代表者の方に直接意見を貰うなど、景観に対する市民の意見を反映させる工夫が必要ではないか。

○夏頃に人が集まるイベント等があれば、風車のある景観の VR 体験を行うこともできるのではないか。

→夏には商店街で夏祭りが、10月には産業まつりがある。

○先日漁船漁業者協議会で話をしたようだが、事業に悪い印象を持っている人も中にはいるようだった。漁業者の説明の際は、カタカナや難しい言葉を排除して、わかりやすい言葉で丁寧に説明してほしい。問い合わせが来た時に、こちらも対応しやすい。

→工夫したい。

○漁業協調を強調しすぎると漁業者が過度に期待を持てしまい、事業化に向けてのハードルが高くなってしまう。言葉の使い方をはじめ表現に気を付けるべきだと思う。

○県や市の水産部署に関連団体を確認して、協議先の漏れが無いようにしてほしい。また、一般の方に対しても周知・発信していかないと意見は出てこない。意見の吸い上げと情報発信の2つが相当大きなことになってくるので、相当大変になるをお願いしたい。

○久慈市が再エネ海域利用法の促進区域の指定を目指すのであれば、ワークショップなどで説明した方が具体的なイメージを持ち、意見が出るのではないか。

→今後の漁業者とのワークショップや市民への発信もタイミング等含め検討したい。

→国の選定基準は明確ではないが、地元の合意形成がなされていることは促進区域指定の重要なポイントであり、県とも一緒に合意形成を目指して進めていきたい。

以上